

各種チェックシート

別添 1 書類審査チェックシート（一種耐熱形配電盤等）	1 0 0
別添 2 書類審査(更新用)チェックシート（一種耐熱形配電盤等）	1 0 5
別添 3 書類審査チェックシート（二種耐熱形配電盤等）	1 1 0
別添 4 書類審査(更新用)チェックシート（二種耐熱形配電盤等）	1 1 4
別添 5 品質管理チェックシート	1 1 8
別添 6 構造検査チェックシート	1 2 0
別添 7 耐熱試験受入チェックシート	1 2 3
別添 8 耐熱試験チェックシート	1 2 4

加熱試験の準備等	1 2 5
----------------	-------

認定品出荷検査チェックシート例

別添 9 認定品出荷検査チェックシート例（一種耐熱形配電盤等）	1 2 7
別添 10 認定品出荷検査チェックシート例（二種耐熱形配電盤等）	1 3 0

使用機器・部材チェックシート

別添 11 一種耐熱形配電盤等使用機器・部材チェックシート	1 3 3
別添 12 二種耐熱形配電盤等使用機器・部材チェックシート	1 3 4

認定機器と登録機器	1 3 4
-----------------	-------

書類審査チェックシート

(一種耐熱形配電盤等)

年 月 日

確認者

申請者名		受付番号	
型式区分	(種別) 一種耐熱形	(耐熱性能) 型	(区分)
チェックの別	新規審査 自己チェック	型式番号	

項目	チェック内容	結果	指摘事項等
○申請図書	(1) 申請図書類はA4サイズか。 ¹⁾ (2) 申請書及び図書類は「認定試験規程」に定める図書であるか。 なお、綴じ込み順序は次による。 1. 型式認定申請書 2. 取得済みの認定証書の写 (認定試験一部省略の場合に添付) 3. 誓約書 4. 品質管理に関する説明書 5. 外形図 (取付部品表も含む。) 6. 回路構成図 7. 構造図 (縦、横断面図) 8. 断熱ボックス構造図 9. 計器窓の取付図  10. 銘板図 11. 認定品の取扱い範囲に関する図書 12. 工場案内図 13. 書類審査チェックシート 14. 構造検査チェックシート 15. 自主耐熱試験成績書 (認定試験一部省略の場合は不要)		
1. 型式認定申請書	(1) 申請者の記載事項に誤りはないか。 (2) 型式区分〔種別、耐熱性能、区分〕に誤りはないか。 (3) 「添付図書類」の欄の記載事項に誤りはないか。 (4) 供試品 (耐熱試験を行う盤) については、外形図、回路構成図、構造図、断熱ボックス構造図の部分に“(供試品)”と追記してあるか。 (5) その他、記載事項に誤りはないか。		
2. 取得済みの認定証書の写	認定証書の写は、認定試験一部省略に相当する内容のものか。また、その有効期限に問題はないか。		
3. 誓約書	誓約書の記載内容に誤りはないか。		
4. 品質管理に関する説明書	(1) 品質管理責任者は管理職 (部長職以上) であるか。 (2) 品質管理担当責任者は管理職 (課長職以上) であるか。 (3) 連絡担当者欄には氏名のほか、所属部署、TEL、FAX、E-mail が記載されているか。 (4) 品質管理組織図には、各部門の体制図が記載されているか。 (5) 品質管理組織図には、クレーム対策についての対処が記載されているか。 (6) (一社)日本配電制御システム工業会の「JSIA 優良工場」又は JIS「品質マネジメントシステム」の認証を得ている取得者は、その旨「品質管理組織図」の欄の右隅に記載しているか。		立入審査時、一部省略条件

注¹⁾ 文字等見えないものについては、A3サイズでもよい。

項 目	チェック内容	結果	指摘事項等
4. 品質管理 に関する説明書	(7) 次の試験装置を所有している旨、記載されているか。 ア. 交流電圧調整器 100V、5A以上 イ. 電流調整器 400A、CT400/5A以上 ウ. 交流電圧計 300V以上、0.5級以上 エ. 交流電流計 5A、0.5級以上 オ. 耐電圧試験装置 AC2000V以上、0.5kVA以上 カ. 絶縁抵抗計 DC500V キ. 検電器 2000V用以上 ク. テスタ ケ. 温度計、湿度計 コ. 膜厚計		
	(8) 次の関係規格基準類を所有している旨、記載されているか。 ア. 耐熱形配電盤等型式認定の手引 イ. 消防関係法令集 ウ. 建築基準法関係法令集 エ. 電気設備の技術基準 オ. 内線規程 カ. JIS 及び JEM 等における関係規格 キ. 社内設計基準 ク. 社内検査基準		
	(9) その他、記載事項に誤りはないか。		
5. 外形図 (図面全般)	(1) 図面表題欄には、JIS に準拠した次の内容が記載されているか ア. 図名 イ. 企業名 ウ. 設計者又は製図者 エ. 承認者又は検図者 オ. 図面作成年月日		
	(2) 供試品については、外形図、回路構成図、構造図、断熱ボックス構造図の部分に“(供試品)”と記入してあるか。		
5.1 外形図	(1) 正面図、側面図、内部配置図が記載されているか。		
	(2) 専用形の場合、外形寸法は 500W×700H×200D であるか。 なお、上記以外の場合の各部の寸法は、供試品以上とする。		
	(3) 専用形の場合、各部の寸法は次のようになっているか。 ア. 露出式の場合、取付孔は 4×φ14 で、その位置は 400W×600H であるか。 イ. 電線引込み及び引出し寸法は、100mm であるか。 ウ. 電線引込み口及び引出し口の電線貫通金物の取付け位置は、背面より 60mm であるか。		
	(4) 共用形の場合、実用に供する寸法であるか。 なお、防災回路部分の各部の寸法は、供試品以上であること。		
	(5) 共用形の場合、ドアは、防災電源回路用と一般回路用を別個のものとし、防災回路部のドアは他のドアに関わることなく開閉できる構造であるか。なお、防災回路部のドアは丁番式であること。		
	(6) 正面図、側面図、内部配置図の番号と取付部品表の部品名称の番号(No)は整合しているか。		
	(7) 耐火表示灯は、正面の見やすい箇所に取付けてあるか。		
	(8) 名称板は、正面の見易い箇所(上部)に取付けてあるか。		
	(9) 銘板は、ドア裏面に取付けてあるか。		
	(10) その他、記載事項に誤りはないか。		
5.2 取付部品表	(1) ボックスの板厚の仕様は、1.6mm(以上)となっているか。		
	(2) 前面枠及びドアの板厚の仕様は、2.3mm(以上)となっているか。		

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
5. 2 取付部品表	(3) 断熱ボックスの仕様に誤りはないか。 〔断熱板、防火塗料、断熱充填物、メーカー、形式〕		8. 断熱ボックス構造 図に記載してもよい
	(4) 耐火形表示灯の仕様に誤りはないか。 〔耐火形登録品、メーカー、形式、赤色〕		
	(5) 名称板の横寸法は、200mm（以上）であるか。		
	(6) 銘板の材質は、金属製で厚さ 0.8mm（以上）であるか。		
	(7) 耐火形扉用把手の仕様に誤りはないか。 〔耐火形登録品、メーカー、形式〕		
	(8) 電線貫通金物は金属製であるか。		
	(9) 耐熱形配線用遮断器の仕様に誤りはないか。また、形状ごとに記載されているか。 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合〔一種耐熱形認定品、メーカー、形式〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合〔二種耐熱形認定品以上、メーカー、形式〕		
	(10) 耐熱形表示灯用変圧器の仕様に誤りはないか。 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合〔一種耐熱形登録品、メーカー、形式〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合〔汎用品、メーカー、形式〕		
	(11) 耐熱形ヒューズホルダの仕様に誤りはないか。 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合〔一種耐熱形登録品、メーカー、形式〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合〔二種耐熱形登録品以上、メーカー、形式〕 ③耐熱形ヒューズ（栓形）〔一種耐熱形認定品、メーカー、形式〕		
	(12) 表示灯用ヒューズの仕様に誤りはないか。 〔メーカー、ガラス管ヒューズ又は栓形ヒューズ、消弧剤入り〕		
	(13) 耐火形端子台の仕様に誤りはないか。 〔耐火形認定品、メーカー、形式〕		
	(14) 用途名称板（カードホルダ）の仕様に誤りはないか。 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合〔一種耐熱形登録品、メーカー、形式〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合〔難燃性〕 なお、1 型、2 型共に金属製としてもよい。		
	(15) 図面ホルダの仕様は、金属製又は金属枠と難燃性の透明板（厚さ 1.0mm 以下のもの）となっているか。		
	(16) 接地端子の仕様（5.5mm ² 用）に誤りはないか。		
	(17) 耐火電線は、認定品(JCT ニテイ または JCMA ニテイ) であるか。 なお、保護ヒューズの 2 次側は IV 電線でもよい。		
	(18) 電圧計、電流計の仕様に誤りはないか。 配 〔メーカー、形式、階級〕 階級:2.5 級以上		
	(19) 耐熱形変流器の仕様に誤りはないか。 配 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合 〔一種耐熱形登録品、メーカー、形式、階級〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合 〔二種耐熱形登録品、メーカー、形式、階級〕 なお、1 型、2 型とも階級は 2.5 級以上		
	(20) その他、記載事項に誤りはないか。		
6. 回路構成図	(1) 図記号等に誤りはないか。（JIS C 0617 に準拠しているか。）		
	(2) 電線の種類、サイズ（mm ² ）に誤りはないか。		
	(3) 耐火形端子台は電線サイズに合ったものか。		
	(4) 表示灯用回路は、動力回路のみとし、耐熱形配線用遮断器の 2 次側に接続しているか。（申請図書の場合のみ）		

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
6. 回路構成図	(5) 表示灯用回路には、両極に 1A～3A の消弧剤入りヒューズを設けているか。		
	(6) 表示灯用ヒューズに至る耐火電線は、JCT、JCMS 認定品を使用しているか。なお、ヒューズの 2 次側より表示灯に至る電線は IV 1.25mm ² でもよい。		
	(7) 電圧計用回路は、耐熱形配線用遮断器の 1 次側に接続しているか。 配		
	(8) 電圧計用回路には、両極に 1A～3A の消弧剤入りヒューズを設けているか。 配		
	(9) 電圧計用ヒューズに至る耐火電線は、JCT、JCMS 認定品を使用しているか。なお、ヒューズの 2 次側より電圧計に至る電線は IV 2mm ² でもよい。 配		
	(10) 電流計には変流器が併用され、電流計までの配線がなされているか。なお、電線は IV 2mm ² でもよい。 配		
	(11) その他、記載事項に誤りはないか。		
7. 構造図 (縦・横断面図)	(1) 主要構造、部品、材料が記載されているか。		
	(2) 寸法等の指示に、記入ミスや未記入がないか。 (手引記入例参照のこと)		
	(3) 寸法等の記載方法に誤りはないか。 例 2.3mm ⇒ t2.3、 4-14φ 取付穴 ⇒ 4×φ14 取付孔		
	(4) 前面枠及びドアは 2.3mm、その他は 1.6mm (以上) の鋼板である旨の指示があるか。(ボックスが前面枠を兼ねる構造で、枠の幅が 50mm 以下のものは 1.6mm で可)		
	(5) ドア開閉部は、熱気流 1 回返し以上の構造で、その空間の 1 箇所は 3.5mm 以内となっているか。 《説明書きが必要》		
	(6) 共用形の横断面図には一般回路部分も記載されているか。		
	(7) ボックス及び断熱ボックスの貫通部など必要な部分には、断熱充填物で十分にシールされているか。		
	(8) 電線管又は金属製可とう電線管を容易に接続できるか。		
	(9) 耐火形端子台への接続スペースは適切か。		
	(10) 耐火形表示灯のレンズはキャビネットの表面より突出しているか。(盤内に取り付けてはならない)		
	(11) 計器は、配線の接続スペースが取れる位置にあるか。 配		
	(12) その他、記載事項に誤りはないか。		
8. 断熱ボックス	(1) 断熱ボックスの材料に問題はないか。 ア. 断熱板 : メーカー、形式 イ. 防火塗料 : メーカー、形式 ウ. 断熱充填物 : メーカー、形式		5.2 取付部品表に記載でもよい
	(2) 断熱構造部の詳細が記入されているか。		
	(3) 断熱板の厚さは 15mm 以上であるか。		
	(4) 供試品でない場合の断熱ボックスの寸法は、供試品の各部の寸法以上であるか。		
	(5) 脱落防止ねじ (M6 以上) 及び金具は、鋼製以上の熱的強度を有するものを使用しているか。また、ねじは頭部にドライバ用のすり割りを入れたものであるか。なお、上記構造でない場合は、委員会の承諾 (供試品と同様) を得たものか。		
	(6) 断熱ボックスは、強度的に問題ない構造であるか。 (接合部、コーナなど)		
	(7) 防火塗料の塗布厚は 0.6mm 以上である旨、記載されているか。		7. 構造図に記載でもよい

項 目	チ ェ ッ ク 内 容	結 果	指 摘 事 項 等
8. 断熱ボックス	(8) 塗布箇所が記載されているか。また、その箇所に問題ないか。		
	(9) その他、記載事項に誤りはないか。		
9. 計器 	(1) 計器窓の取付け図が添付されているか。また、計器窓の断熱構造は適切か。		
	(2) 計器窓は金属製の網入板ガラス 6.8mm（以上）を使用しているか。		
	(3) その他、記載事項に誤りはないか。		
10. 銘板図	(1) 銘板の材質は、金属製で厚さ 0.8mm 以上であるか。		5.2 取付部品表に記載でも可
	(2) 銘板は、「耐熱形配電盤等認定基準」に示す、下記表示を満足しているか。 ア. 種別（一種の配電盤、分電盤の別）及び専用形、共用形の別 イ. 区分（露出式、埋込式の別） ウ. 製造者又は商標 エ. 製造年月 オ. 製造者形名 カ. 製造番号 キ. 定格電圧 ク. 相 ケ. 線式 コ. 定格電流 サ. 定格周波数		
	(3) その他、記載事項に誤りはないか。		
11. 認定品の 取扱い範囲 に関する図書	(1) 認定品の導電部の下記接続方法に問題はないか。 ア. 導体の接続方法について イ. 導体支持物の種類（材質）について ウ. 電圧計及び表示灯へのコネクタ配線について		
	(2) 保護板の材料に問題はないか。		
	(3) ドア部の各種構造に問題はないか。（7. 構造図と同等以上か。）		隙間など確認
	(4) 屋外用の構造に問題はないか。 屋根部の構造は、キャビネットを変更しないで取付ける構造であること。（屋根部取付けのためのねじ孔加工はよい）		
	(5) その他、記載事項に誤りはないか。		
12. 工場案内図	最寄りの駅から、工場まで道程がわかる案内図であるか。		
13. 書類審査 チェックシート	確認者名及びチェック日の記載があるか。		
14. 自主 耐熱試験成績書 (供試品のみ)	(1) 耐熱温度曲線図（チャート図）が添付されているか。 その耐熱試験温度曲線（840 度 30 分）は規定通りか。 （840 度耐熱温度曲線の±10%の範囲内であること。）		
	(2) 耐熱温度曲線図から、断熱ボックス内部温度（指定測定点 B）の 30 分後の温度は ①耐熱性能 1(280℃型)の場合：280℃以下 ②耐熱性能 2(105℃型)の場合：105℃以下 になっているか。		
	(3) 耐熱試験の写真には、次の内容が示されているか。 耐熱試験前：キャビネットの正面外観・正面内部、 断熱ボックスの正面内部 耐熱試験後：キャビネットの正面外観・正面内部、 断熱ボックスの正面内部 各 1 枚、計 6 枚。また、その写真から問題はないか。		
15. その他			

注記 1 結果欄には、適正は○印、不適正は×印、該当なしの場合は— 印を記入する。

注記 2  は、配電盤のみに適用。

注記 3 供試品とは、認定取得のために耐熱試験を行った盤をいう。

注記 4 認定試験一部省略とは、「認定試験規程」5.認定試験の一部省略に該当する盤をいう。

書類審査(更新用)チェックシート

(一種耐熱形配電盤等)

年 月 日

確認者

申請者名		受付番号	
型式区分	(種別) 一種耐熱形	(耐熱性能) 型	(区分)
チェックの別	更新審査 自己チェック	型式番号	

項 目	チェック内容	結果	指摘事項等
○申請図書	(1) 申請図書はA 4 サイズか。 ¹⁾ (2) 申請書及び図書類は「認定試験規程」に定める図書であるか。 なお、綴じ込み順序は次による。 1. 型式認定更新申請書 2. 取得済みの認定証書の写 3. 誓約書 4. 品質管理に関する説明書 5. 外形図（取付部品表も含む。） 6. 回路構成図 7. 構造図（縦、横断面図） 8. 断熱ボックス構造図 9. 計器窓の取付図 配 10. 銘板図 11. 認定品の取扱い範囲に関する図書 12. 工場案内図 13. 書類審査チェックシート		
1. 型式認定 更新申請書	(1) 申請者の記載事項に誤りはないか。 (2) 型式区分〔種別、耐熱性能、区分〕に誤りはないか。 (3) 「添付図書類」の欄の記載事項に誤りはないか。 (4) 供試品（耐熱試験を行った盤）については、外形図、回路構成図、構造図、断熱ボックス構造図の部分に“(供試品)”と追記してあるか。 (5) その他、記載事項に誤りはないか。		
2. 取得済みの 認定証書の写	認定証書の写と更新申請書の型式区分、型式番号、有効期限は整合しているか。また、有効期限に問題はないか。		
3. 誓約書	誓約書の記載内容に誤りはないか。		
4. 品質管理 に関する説明書	(1) 品質管理責任者は管理職（部長職以上）であるか。 (2) 品質管理担当責任者は管理職（課長職以上）であるか。 (3) 連絡担当者欄には氏名のほか、所属部署、TEL、FAX、メールが記載されているか。 (4) 品質管理組織図には、各部門の体制図が記載されているか。 (5) 品質管理組織図には、クレーム対策についての対処が記載されているか。 (6) (一社)日本配電制御システム工業会の「JSIA 優良工場」又は JIS「品質マネジメントシステム」の認証を得ている取得者は、その旨「品質管理組織図」の欄の右隅に記載されているか。		立入審査時、一部省略条件

注 ¹⁾ 文字等見えないものについては、A 3 サイズでもよい。

項 目	チェック内容	結果	指摘事項等
4. 品質管理 に関する説明書	(7) 次の試験装置を所有している旨、記載されているか。 ア. 交流電圧調整器 100V、5A以上 イ. 電流調整器 400A、CT400/5A以上 ウ. 交流電圧計 300V以上、0.5級以上 エ. 交流電流計 5A、0.5級以上 オ. 耐電圧試験装置 AC2000V以上、0.5kVA以上 カ. 絶縁抵抗計 DC500V キ. 検電器 2000V用以上 ク. テスタ ケ. 温度計、湿度計 コ. 膜厚計		
	(8) 次の関係規格基準類を所有している旨、記載されているか。 ア. 耐熱形配電盤等型式認定の手引 イ. 消防関係法令集 ウ. 建築基準法関係法令集 エ. 電気設備の技術基準 オ. 内線規程 カ. JIS 及び JEM 等における関係規格 キ. 社内設計基準 ク. 社内検査基準		
	(9) その他、記載事項に誤りはないか。		
5. 外形図 (図面全般)	(1) 図面表題欄には、JIS に準拠した次の内容が記載されているか ア. 図名 イ. 企業名 ウ. 設計者又は製図者 エ. 承認者又は検図者 オ. 図面作成年月日		
	(2) 図面には、最新版の「認定の手引」に適合しているか確認した日付と確認者名があるか。 なお、確認日は提出日の3か月前までのものとする。		新たに図面を作成した場合は不要
	(3) 供試品については、外形図、回路構成図、構造図、断熱ボックス構造図の部分に“(供試品)”と記入してあるか。		
5.1 外形図	(1) 正面図、側面図、内部配置図が記載されているか。		
	(2) 専用形の場合、外形寸法は500W×700H×200Dであるか。 なお、上記以外の場合の各部の寸法は、供試品以上とする。		
	(3) 専用形の場合、各部の寸法は次のようになっているか。 ア. 露出式の場合、取付孔は4×φ14で、その位置は400W×600Hであるか。 イ. 電線引込み及び引出し寸法は、100mmであるか。 ウ. 電線引込み口及び引出し口の電線貫通金物の取付け位置は背面より60mmであるか。		
	(4) 共用形の場合、実用に供する寸法であるか。 なお、防災回路部分の各部の寸法は、供試品以上であること。		
	(5) 共用形の場合、ドアは、防災電源回路用と一般回路用を別個のものとし、防災回路部のドアは他のドアに関わることなく開閉できる構造であるか。 なお、防災回路部のドアは丁番式であること。		
	(6) 正面図、側面図、内部配置図の番号と取付部品表の部品名称の番号(No)は整合しているか。		
	(7) 耐火表示灯は、正面の見やすい箇所に取付けてあるか。		
	(8) 名称板は、正面の見やすい箇所(上部)に取付けてあるか。		
	(9) 銘板は、ドア裏面に取付けてあるか。		

項 目	チェック内容	結果	指摘事項等
5.1 外形図	(9) 銘板は、ドア裏面に取付けてあるか。		
	(10) その他、記載事項に誤りはないか。		
5.2 取付部品表	(1) ボックスの板厚の仕様は、1.6mm（以上）となっているか。		
	(2) 前面枠及びドアの板厚の仕様は、2.3mm（以上）となっているか。		
	(3) 断熱ボックスの仕様に誤りはないか。 〔断熱板、防火塗料、断熱充填物のメーカー、形式〕		8. 断熱ボックス構造図に記載してもよい
	(4) 耐火形表示灯の仕様に誤りはないか。 〔耐火形登録品、メーカー、形式、赤色〕		
	(5) 名称板の横寸法は、200mm（以上）であるか。		
	(6) 銘板の材質は、金属製で厚さ 0.8mm（以上）であるか。		
	(7) 耐火形扉用把手の仕様に誤りはないか。 〔耐火形登録品、メーカー、形式〕		
	(8) 電線貫通金物は金属製であるか。		
	(9) 耐熱形配線用遮断器の仕様に誤りはないか。また、形状ごとに記載されているか。 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合〔一種耐熱形認定品、メーカー、形式〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合〔二種耐熱形認定品以上、メーカー、形式〕		
	(10) 耐熱形表示灯用変圧器の仕様に誤りはないか。 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合〔一種耐熱形登録品、メーカー、形式〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合〔汎用品、メーカー、形式〕		
	(11) 耐熱形ヒューズホルダの仕様に誤りはないか。 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合〔一種耐熱形登録品、メーカー、形式〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合〔二種耐熱形登録品以上、メーカー、形式〕 ③耐熱形ヒューズ（栓形）〔一種耐熱形認定品、メーカー、形式〕		
	(12) 表示灯用ヒューズの仕様に誤りはないか。 〔メーカー、ガラス管ヒューズ又は栓形ヒューズ、消弧剤入り〕		
	(13) 耐火形端子台の仕様に誤りはないか。 〔耐火形認定品、メーカー、形式〕		
	(14) 用途名称板（カードホルダ）の仕様に誤りはないか。 ①耐熱性能 1（280℃型）の場合〔一種耐熱形登録品、メーカー、形式〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合〔難燃性〕 なお、1 型、2 型共に金属製としてもよい。		
	(15) 図面ホルダの仕様は、金属製又は金属枠と難燃性の透明板（厚さ 1.0mm 以下のもの）となっているか。		
	(16) 接地端子の仕様（5.5mm ² 用）に誤りはないか。		
	(17) 耐火電線は、認定品（JCT <u>エンテ</u> ）又は JCMA <u>エンテ</u> ）であるか。 なお、保護ヒューズの 2 次側は IV 電線でもよい。		
	(18) 電圧計、電流計の仕様に誤りはないか。 <u>配</u> 〔メーカー、形式、階級〕 階級は 2.5 級以上		
	(19) 耐熱形変流器の仕様に誤りはないか。 <u>配</u> ①耐熱性能 1（280℃型）の場合 〔一種耐熱形登録品、メーカー、形式、階級〕 ②耐熱性能 2（105℃型）の場合 〔二種耐熱形登録品、メーカー、形式、階級〕 なお、1 型、2 型とも階級は 2.5 級以上		
	(20) その他、記載事項に誤りはないか。		

項 目	チェック内容	結果	指摘事項等
6. 回路構成図	(1) 図記号等に誤りはないか。(JIS C 0617 に準拠しているか。)		
	(2) 電線の種類、サイズ (mm ²) に誤りはないか。		
	(3) 耐火形端子台は電線サイズに合ったものか。		
	(4) 表示灯用回路は、動力回路のみとし、耐熱形配線用遮断器の 2 次側に接続しているか。(申請図書の場合のみ)		
	(5) 表示灯用回路には、両極に 1A～3A の消弧剤入りヒューズを設けているか。		
	(6) 表示灯用ヒューズに至る耐火電線は、JCT、JCMA 認定品を使用しているか。なお、ヒューズの 2 次側より表示灯に至る電線は IV 1.25mm ² でもよい。		
	(7) 電圧計用回路は、耐熱形配線用遮断器の 1 次側に接続しているか。 配		
	(8) 電圧計用回路には、両極に 1A～3A の消弧剤入りヒューズを設けているか。 配		
	(9) 電圧計用ヒューズに至る耐火電線は、JCT、JCMA 認定品を使用しているか。なお、ヒューズの 2 次側より電圧計に至る電線は IV 2mm ² でもよい。 配		
	(10) 電流計には C T が併用され、電流計までの配線がなされているか。なお、電線は IV 2mm ² でもよい。 配		
	(11) その他、記載事項に誤りはないか。		
7. 構造図 (縦・横断面図)	(1) 主要構造、部品、材料が記載されているか。		
	(2) 寸法等の指示に、記入ミスや未記入がないか。 (手引記入例参照のこと)		
	(3) 寸法等の記載方法に誤りはないか。 例 2.3mm ⇒ t2.3、 4-14φ 取付穴 ⇒ 4×φ14 取付孔		
	(4) 前面枠及びドアは 2.3mm、その他は 1.6mm (以上) の鋼板である旨の指示があるか。(ボックスが前面枠を兼ねる構造で、枠の幅が 50mm 以下のものは 1.6mm で可)		
	(5) ドア開閉部は、熱気流 1 回返し以上の構造で、その空間の 1 箇所は 3.5mm 以内としているか。《説明書きが必要》		
	(6) 共用形の横断面図には一般回路部分も記載されているか。		
	(7) ボックス及び断熱ボックスの貫通部など必要な部分には、断熱充填物で十分にシールされているか。		
	(8) 電線管又は金属製可とう電線管を容易に接続できるか。		
	(9) 耐火形端子台への接続スペースは適切か。		
	(10) 耐火形表示灯のレンズはキャビネットの表面より突出しているか。(盤内に取り付けてはならない)		
	(11) 計器は、配線の接続スペースが取れる位置にあるか。 配		
	(12) その他、記載事項に誤りはないか。		
8. 断熱ボックス	(1) 断熱ボックスの材料に問題はないか。 ア. 断熱板 : メーカー、形式 イ. 防火塗料 : メーカー、形式 ウ. 断熱充填物 : メーカー、形式		5.2 取付部品表に記載でもよい
	(2) 断熱構造部の詳細が記入されているか。		
	(3) 断熱ボックスの板厚は 15mm 以上であるか。		
	(4) 供試品でない場合の断熱ボックスの寸法は、供試品の各部の寸法以上であるか。		

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
8. 断熱ボックス	(5) 脱落防止ねじ（M6 以上）及び金具は、鋼製以上の熱的強度を有するものを使用しているか。また、ねじは頭部にドライバ用のすり割りを入れたものであるか。なお、上記構造でない場合は、委員会の承諾（供試品と同様）を得たものか。		
	(6) 断熱ボックスは、強度的に問題ない構造であるか。		
	(7) 防火塗料の塗布厚は 0.6mm 以上である旨、記載されているか。		7. 構造図に記載でも可
	(8) 塗布箇所が記載されているか。また、その箇所に問題ないか。		
	(9) その他、記載事項に誤りはないか。		
9. 計器 配	(1) 計器窓の取付け図が添付されているか。また、計器窓の断熱構造は適切か。		
	(2) 計器窓は金属製の網入板ガラス 6.8mm（以上）を使用しているか。		
	(3) その他、記載事項に誤りはないか。		
10. 銘板図	(1) 銘板の材質は、金属製で厚さ 0.8mm（以上）であるか。		5.2 取付部品表に記載でも可
	(2) 銘板は、「耐熱形配電盤等認定基準」に示す、下記表示を満足しているか。 ア. 種別（一種の配電盤、分電盤の別）及び専用形、露出形の別 イ. 区分（露出式、埋込式の別） ウ. 製造者又は商標 エ. 製造年月 オ. 製造者形名 カ. 製造番号 キ. 定格電圧 ク. 相 ケ. 線式 コ. 定格電流 サ. 定格周波数		
	(3) その他、記載事項に誤りはないか。		
11. 認定品の 取扱い範囲 に関する図書	(1) 認定品の導電部の下記接続方法に問題はないか。 ア. 導体の接続方法について イ. 導体支持物の種類（材質）について ウ. 電圧計及び表示灯へのコネクタ配線について		
	(2) 保護板の材料に問題はないか。		
	(3) ドア部の各種構造に問題はないか。（7. 構造図と同等以上か。）		隙間など確認
	(4) 屋外用の構造に問題はないか。 屋根部の構造は、キャビネットを変更しないで取付ける構造であること。（屋根部取付けのためのねじ孔加工は可）		
	(5) その他、記載事項に誤りはないか。		
12. 工場案内図	最寄りの駅から、工場まで道程がわかる案内図であるか。		
13. 書類審査 チェックシート	確認者名及びチェック日の記載があるか。		
14. その他			

注記 1 結果欄には、適正は○印、不適正は×印、該当なしの場合は— 印を記入する。

注記 2 配 は、配電盤のみに適用。

注記 3 供試品とは、認定取得のために耐熱試験を行った盤をいう。

注記 4 認定試験一部省略とは、「認定試験規程」5.認定試験の一部省略に該当する盤をいう。

書類審査チェックシート

(二種耐熱形配電盤等)

年 月 日

確認者

申請者名		受付番号	
型式区分	(種別) 二種耐熱形 (区分)		
チェックの別	新規審査 自己チェック	型式番号	

項目	チェック内容	結果	指摘事項等
○申請図書	(1) 申請図書はA 4 サイズか。 ¹⁾ (2) 申請書及び図書類は「認定試験規程」に定める図書であるか。 なお、綴じ込み順序は次による。 1. 型式認定申請書 2. 取得済みの認定証書の写 (認定試験一部省略の場合に添付) 3. 誓約書 4. 品質管理に関する説明書 5. 外形図 (取付部品表も含む。) 6. 回路構成図 7. 構造図 (縦、横断面図) 8. 銘板図 9. 認定品の取扱い範囲に関する図書 10. 工場案内図 11. 書類審査チェックシート 12. 自主耐熱試験成績書 (認定試験一部省略の場合は不要)		
1. 型式認定申請書	(1) 申請者の記載事項に誤りはないか。 (2) 型式区分 (種別、区分) に誤りはないか。 (3) 「添付図書類」の欄の記載事項に誤りはないか。 (4) 供試品 (耐熱試験を行った盤) については、外形図、回路構成図、構造図の部分に“(供試品)”と追記してあるか。 (5) その他、記載事項に誤りはないか。		
2. 取得済みの認定証書の写	認定証書の写は、認定試験一部省略に相当する内容のものか。また、その有効期限に問題はないか。		
3. 誓約書	誓約書の記載内容に誤りはないか。		
4. 品質管理に関する説明書	(1) 品質管理責任者は管理職 (部長職以上) であるか。 (2) 品質管理担当責任者は管理職 (課長職以上) であるか。 (3) 連絡担当者欄には氏名のほか、所属部署、TEL、FAX、メールが記載されているか。 (4) 品質管理組織図には、各部門の体制図が記載されているか。 (5) 品質管理組織図には、クレーム対策についての対処が記載されているか。 (6) (一社) 日本配電制御システム工業会の「JSIA 優良工場」又は JIS「品質マネジメントシステム」の認証を得ている取得者は、その旨「品質管理組織図」の欄の右隅に記載されているか。		立入審査時、一部省略条件

注¹⁾ 文字等見えないものについては、A 3 サイズでもよい。

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
4. 品質管理 に関する説明書	(7) 次の試験装置を所有している旨、記載されているか。 ア. 交流電圧調整器 100V、5A以上 イ. 電流調整器 400A、CT400/5A以上 ウ. 交流電圧計 300V以上、0.5級以上 エ. 交流電流計 5A、0.5級以上 オ. 耐電圧試験装置 AC2000V以上、0.5kVA以上 カ. 絶縁抵抗計 DC500V キ. 検電器 2000V用以上 ク. テスタ ケ. 温度計、湿度計		
	(8) 次の関係規格基準類を所有している旨、記載されているか。 ア. 耐熱形配電盤等型式認定の手引 イ. 消防関係法令集 ウ. 建築基準法関係法令集 エ. 電気設備の技術基準 オ. 内線規程 カ. JIS及びJEM等における関係規格 キ. 社内設計基準 ク. 社内検査基準		
	(9) その他、記載事項に誤りはないか。		
5. 外形図 (図面全般)	(1) 図面表題欄には、JISに準拠した次の内容が記載されているか ア. 図名 イ. 企業名 ウ. 設計者又は製図者 エ. 承認者又は検図者 オ. 図面作成年月日		
	(2) 供試品については、外形図、回路構成図、構造図の部分に “(供試品)”と記入してあるか。		
5.1 外形図	(1) 正面図、側面図、内部配置図が記載されているか。		
	(2) 専用形の場合、外形寸法は500W×700H×200Dであるか。 なお、上記以外の場合の各部の寸法は、供試品以上とする。		
	(3) 専用形の場合、各部の寸法は、次のようになっているか。 ア. 露出式の場合、取付孔は4×φ14で、その位値は400W×600Hであるか。 イ. 電線引込み及び引出し寸法は、100mmであるか。 ウ. 電線引込み口及び引出し口の電線貫通金物の取付け位置は、背面より60mmであるか。		
	(4) 共用形の場合、実用に供する寸法であるか。 なお、防災回路部分の各部の寸法は、供試品以上であること。		
	(5) 共用形の場合、ドアは、防災電源回路用と一般回路用を別個のものとし、防災回路部のドアは他のドアに関わることなく開閉できる構造であるか。 なお、防災回路部のドアは丁番式であること。		
	(6) 正面図、側面図、内部配置図の番号と取付部品表の部品名称の番号(No)は整合しているか。		
	(7) 表示灯は、正面の見やすい箇所に取付けてあるか。		
	(8) 名称板は、正面の見易い箇所(上部)に取付けてあるか。		
	(9) 銘板は、ドア裏面に取付けてあるか。		
	(10) その他、記載事項に誤りはないか。		
5.2 取付部品表	(1) ボックスの板厚の仕様は、1.6mm(以上)となっているか。		
	(2) 前面枠及びドアの板厚の仕様は、1.6mm(以上)となっているか。		

項 目	チェック内容	結果	指摘事項等
5.2 取付部品表	(3) 表示灯の仕様に誤りはないか。 〔メーカ、形式、赤色、取付孔径〕 取付孔径：φ15 以上		
	(4) 名称板の横寸法は、200mm（以上）であるか。		
	(5) 銘板の材質は、金属製で厚さ 0.8mm（以上）であるか。		
	(6) 扉用把手は金属製の施錠形のものか。		
	(7) 耐熱形配線用遮断器の仕様に誤りはないか。また、形状ごとに記載されているか。〔二種耐熱形認定品以上、メーカ、形式〕		
	(8) 表示灯用変圧器の仕様〔メーカ、形式〕に、誤りはないか。		
	(9) 耐熱形ヒューズホルダの仕様に誤りはないか。 〔二種耐熱形登録品以上、メーカ、形式〕		
	(10) 表示灯用ヒューズの仕様に誤りはないか。 〔メーカ、ガラス管ヒューズ又は栓形ヒューズ、消弧剤入り〕		
	(11) 耐熱形端子台の仕様に誤りはないか。 〔二種耐熱形登録品以上、メーカ、形式〕		
	(12) 用途名称板(カードホルダ)の仕様に誤りはないか。 〔難燃性又は金属製〕		
	(13) 図面ホルダの仕様は、金属製又は金属枠と難燃性の透明板 (厚さ 1.0mm 以下のもの) となっているか。		
	(14) 接地端子の仕様 (5.5mm ² 用) に誤りはないか。		
	(15) 電線は、認定品 (JCT ☐ 又は JCMA ☐ 又は 600V 二種ビニル絶縁電線 (HIV 電線) であるか。		
	(16) 電圧計、電流計の仕様に誤りはないか。 ☐ 〔メーカ、形式、階級〕 階級：2.5 級以上		
	(17) 耐熱形変流器の仕様に誤りはないか。 ☐ 〔二種耐熱形登録品、メーカ、形式、階級〕 階級：2.5 級以上		
	(18) その他、記載事項に誤りはないか。		
6. 回路構成図	(1) 図記号等に誤りはないか。(JIS C 0617 に準拠しているか。)		
	(2) 電線の種類、サイズ (mm ²) に誤りはないか。		
	(3) 耐熱形端子台は電線サイズに合ったものか。		
	(4) 表示灯用回路は、動力回路のみとし、耐熱形配線用遮断器の 2 次側に接続しているか。(申請図書の場合のみ)		
	(5) 表示灯用回路には、両極に 1A～3A の消弧剤入りヒューズを設けているか。		
	(6) 表示灯用ヒューズに至る電線は、認定品又は HIV 電線を使用しているか。なお、ヒューズの 2 次側より表示灯に至る電線は I V 1.25mm ² でもよい。		
	(7) 電圧計用回路は、耐熱形配線用遮断器の 1 次側に接続しているか。 ☐		
	(8) 電圧計用回路には、両極に 1 A ～ 3 A の消弧剤入りヒューズを設けているか。 ☐		
	(9) 電圧計用ヒューズに至る電線は、認定品又は HIV 電線を使用しているか。なお、ヒューズの 2 次側より電圧計に至る電線は I V 2mm ² でもよい。 ☐		
	(10) 電流計には C T が併用され、電流計までの配線がなされているか。なお、電線は I V 2mm ² でもよい。 ☐		
	(11) その他、記載事項に誤りはないか。		

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
7. 構造図 (縦・横断面図)	(1) 主要構造、部品、材料が記載されているか。		
	(2) 寸法等の指示に、記入ミスや未記入がないか。 (手引記入例参照のこと)		
	(3) 寸法等の記載方法に誤りはないか。 例 2.3mm ⇒ t 2.3、 4-14φ 取付穴 ⇒ 4×φ 14 取付孔		
	(4) キャビネットは 1.6mm(以上)の鋼板である旨の指示があるか。		
	(5) ドア開閉部の隙間は、その空間の 1 箇所が 3.5mm (以内) となっているか。 《説明書きでもよい》		
	(6) 共用形の横断面図には一般回路部分も記載されているか。		
	(7) 電線管又は金属製可とう電線管を容易に接続できるか。		
	(8) 耐熱形端子台への接続スペースは適切か。		
	(9) 表示灯のレンズはキャビネットの表面より突出しているか。		
	(10) 計器は配線の接続スペースが取れる位置にあるか。配		
	(11) その他、記載事項に誤りはないか。		
8. 銘板図	(1) 銘板の材質は、金属製で厚さ 0.8mm (以上) あるか。		
	(2) 銘板は、「耐熱形配電盤等認定基準」に示す、下記表示を満足しているか。 ア. 種別 (二種の配電盤、分電盤の別) 及び専用形、共用形の別 イ. 製造者又は商標 ウ. 製造年月 エ. 製造者形名 オ. 製造番号 カ. 定格電圧 キ. 相 ク. 線式 ケ. 定格電流 コ. 定格周波数		
	(3) その他、記載事項に誤りはないか。		
9. 認定品の 取扱い範囲 に関する図書	(1) 認定品の導電部の接続方法に問題はないか。 ア. 導体の接続方法について イ. 導体支持物の種類 (材質) について ウ. 電圧計及び表示灯へのコネクタ配線について		
	(2) 保護板の材料に問題はないか。		
	(3) ドア部の各種構造に問題はないか。(7. 構造図と同等以上か)		隙間など確認
	(4) 屋外用の構造に問題はないか。 屋根部の構造は、キャビネットを変更しないで取付ける構造であること。(屋根部取付けのためのねじ孔加工はよい)		
	(5) その他、記載事項に誤りはないか。		
10. 工場案内図	最寄りの駅から、工場までの道程がわかる案内図であるか。		
11. 書類審査 チェックシート	確認者のサイン及び日付の記載があるか。		
12. 自主 耐熱試験成績表 (供試品のみ)	(1) 耐熱温度曲線図 (チャート図) が添付されているか。 その耐熱試験温度曲線 (280 度 30 分) は規定通りか。 (280 度耐熱温度曲線の±10%の範囲内であること。)		
	(2) 耐熱温度曲線図から、ボックス内部温度 (指定測定点 B) は 30 分後、105 度以内となっているか。		
	(3) 耐熱試験の写真には、次の内容が示されているか。 耐熱試験前後のキャビネットの正面外観・正面内部、 保護板を開いた又は除いた正面内部 各 1 枚、計 6 枚。また、その写真から問題はないか。		
13. その他			

注記 1 結果欄には、適正は○印、不適正は×印、該当なしの場合は— 印を記入する。

注記 2 配は、配電盤のみに適用。

注記 3 供試品とは、認定取得のために耐熱試験を行った盤をいう。

注記 4 認定試験一部省略とは、「認定試験規程」5.認定試験の一部省略に該当する盤をいう。

書類審査(更新用)チェックシート

(二種耐熱形配電盤等)

年 月 日

確認者

申請者名		受付番号	
型式区分	(種別) 二種耐熱形 (区分)		
チェックの別	更新審査 自己チェック	型式番号	

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
○申請図書	(1) 申請図書はA 4 サイズか。 ¹⁾ (2) 申請書及び図書類は「認定試験規程」に定める図書であるか。 なお、綴じ込み順序は次による。 1. 型式認定更新申請書 2. 取得済みの認定証書の写 3. 誓約書 4. 品質管理に関する説明書 5. 外形図（取付部品表も含む。） 6. 回路構成図 7. 構造図（縦、横断面図） 8. 銘板図 9. 認定品の取扱い範囲に関する図書 10. 工場案内図 11. 書類審査チェックシート		
1. 型式認定 更新申請書	(1) 申請者の記載事項に誤りはないか。		
	(2) 型式区分（種別・区分）に誤りはないか。		
	(3) 「添付図書類」の欄の記載事項に誤りはないか。		
	(4) 供試品（耐熱試験を行った盤）については、外形図、回路構成図、構造図の部分に“(供試品)”追記してあるか。		
	(5) その他、記載事項に誤りはないか。		
2. 取得済みの 認定証書の写	認定証書の写と更新申請書の型式区分、型式番号、有効期限は整合しているか。また、有効期限に問題はないか。		
3. 誓約書	誓約書の記載内容に誤りはないか。		
4. 品質管理 に関する説明書	(1) 品質管理責任者は管理職（部長職以上）であるか。		
	(2) 品質管理担当責任者は管理職（課長職以上）であるか。		
	(3) 連絡担当者が記載されているか。（部署、TEL、FAX 明記）		
	(4) 品質管理組織図には、各部門の体制図が記載されているか。		
	(5) 品質管理組織図には、クレーム対策についての対処が記載されているか。		
	(6) (一社)日本配電制御システム工業会の「JSIA 優良工場」又は「JIS 品質マネジメントシステム」の認証を得ている取得者はその旨「品質管理組織図」の欄の右隅に記載されているか。		立入審査時、一部省略条件

注 ¹⁾ 文字等見えないものについては、A 3 サイズでもよい。

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
4. 品質管理 に関する説明書	(7) 次の試験装置を所有しているか。 ア. 交流電圧調整器 100V、5A以上 イ. 電流調整器 400A、CT400/5A以上 ウ. 交流電圧計 300V以上、0.5級以上 エ. 交流電流計 5A、0.5級以上 オ. 耐電圧試験装置 AC2000V以上、0.5kVA以上 カ. 絶縁抵抗計 DC500V キ. 検電器 2000V用以上 ク. テスタ ケ. 温度計、湿度計		
	(8) 次の関係規格基準類が整備されているか。 ア. 耐熱形配電盤等型式認定の手引 イ. 消防関係法令集 ウ. 建築基準法関係法令集 エ. 電気設備の技術基準 オ. 内線規程 カ. JIS及びJEM等における関係規格 キ. 社内設計基準 ク. 社内検査基準		
	(9) その他、記載事項に誤りはないか。		
5. 外形図 (図面全般)	(1) 図面表題欄には、次の内容が記載されているか。 ア. 図名 イ. 企業名 ウ. 設計者又は製図者 エ. 承認者又は検図者 オ. 図面作成年月日		
	(2) 図面には、最新版の「認定の手引」に適合しているか確認した日付と確認者名があるか。 なお、確認日は提出日の3か月前までのものとする。		新たに図面を作成した場合は不要
	(3) 供試品については、外形図、回路構成図、構造図の部分に“(供試品)”と記入してあるか。		
5.1 外形図	(1) 正面図、側面図、内部配置図が記載されているか。		
	(2) 専用形の場合、外形寸法は500W×700H×200Dであるか。 なお、上記以外の場合の各部の寸法は、供試品以上とする。		
	(3) 専用形の場合、各部の寸法は、次のようになっているか。 ア. 露出式の場合、取付孔は4×φ14で、その位置は400W×600Hであるか。 イ. 電線引込み及び引出し寸法は、100mmであるか。 ウ. 電線引込み口及び引出し口の電線貫通金物の取付け位置は、背面より60mmであるか。		
	(4) 共用形の場合、実用に供する寸法であるか。 なお、防災回路部分の各部の寸法は、供試品以上であること。		
	(5) 共用形の場合、ドアは、防災電源回路用と一般回路用を別個のドアとし、防災回路部のドアは他のドアに関わることなく開閉できる構造であるか。 なお、防災回路部のドアは丁番式であること。		
	(6) 正面図、側面図、内部配置図の番号と取付部品表の部品名称の番号(No)は整合しているか。		
	(7) 表示灯は、正面の見やすい箇所に取付けてあるか。		
	(8) 名称板は、正面の見易い箇所(上部)に取付けてあるか。		
	(9) 銘板は、ドア裏面に取付けてあるか。		
	(10) その他、記載事項に誤りはないか。		

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
5.2 取付部品表	(1) ボックスの板厚の仕様は、1.6mm（以上）となっているか。		
	(2) 前面枠及びドアの板厚の仕様は、1.6mm（以上）となっているか。		
	(3) 表示灯の仕様に誤りはないか。 〔メーカー、形式、赤色、取付孔径〕 取付孔径：φ15 以上		
	(4) 名称板の横寸法は、200mm（以上）であるか。		
	(5) 銘板の材質は、金属製で厚さ 0.8mm（以上）であるか。		
	(6) 扉用把手は金属製の施錠形のものか。		
	(7) 耐熱形配線用遮断器の仕様に誤りはないか。 〔二種耐熱形認定品以上、メーカー、形式〕		
	(8) 表示灯用変圧器の仕様〔メーカー、形式〕に誤りはないか。		
	(9) 耐熱形ヒューズホルダの仕様に誤りはないか。 〔二種耐熱形登録品以上、メーカー、形式〕		
	(10) 表示灯用ヒューズの仕様に誤りはないか。 〔メーカー、ガラス管ヒューズ又は栓形ヒューズ、消弧剤入り〕		
	(11) 耐熱形端子台の仕様に誤りはないか。 〔二種耐熱形登録品以上、メーカー、形式〕		
	(12) 用途名称板(カードホルダ)の仕様に誤りはないか。 〔難燃性又は金属製〕		
	(13) 図面ホルダの仕様は、金属製又は金属枠と難燃性の透明板 (厚さ 1.0mm 以下のもの) となっているか。		
	(14) 接地端子の仕様 (5.5mm ² 用) に誤りはないか。		
	(15) 電線は、認定品(JCT ☐) 又は JCMA ☐) 又は 600V 二種ビニル絶縁電線 (HIV 電線) であるか。		
	(16) 電圧計、電流計の仕様に誤りはないか。 ☐ 〔メーカー、形式、階級〕 階級：2.5 級以上		
	(17) 耐熱形変流器の仕様に誤りはないか。 ☐ 〔二種耐熱形登録品、メーカー、形式、階級〕 階級：2.5 級以上		
	(18) その他、記載事項に誤りはないか。		
6. 回路構成図	(1) 図記号等に誤りはないか。(JIS C 0617 に準拠しているか。)		
	(2) 電線の種類、サイズ (mm ²) に誤りはないか。		
	(3) 耐熱形端子台は電線サイズに合ったものか。		
	(4) 表示灯用回路は、動力回路のみとし、耐熱形配線用遮断器の 2 次側に接続しているか。(申請図書の場合のみ)		
	(5) 表示灯用回路には、両極に 1A～3A の消弧剤入りヒューズを設けているか。		
	(6) 表示灯用ヒューズに至る電線は、認定品又は HIV 電線を使用しているか。なお、ヒューズの 2 次側より表示灯に至る電線は I V 1.25mm ² でもよい。		
	(7) 電圧計用回路は、耐熱形配線用遮断器の 1 次側に接続しているか。 ☐		
	(8) 電圧計用回路には、両極に 1 A ～ 3 A の消弧剤入りヒューズを設けているか。 ☐		
	(9) 電圧計用ヒューズに至る電線は、認定品又は HIV 電線を使用しているか。なお、ヒューズの 2 次側より電圧計に至る電線 I V 2mm ² でもよい。 ☐		

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項 等
6. 回路構成図	(10) 電流計にはCTが併用され、電流計までの配線がなされているか。なお、電線はI V 2mm ² でもよい。 配		
	(11) その他、記載事項に誤りはないか。		
7. 構造図 (縦・横断面図)	(1) 主要構造、部品、材料が記載されているか。		
	(2) 寸法等の指示に、記入ミスや未記入がないか。 (手引記入例参照のこと)		
	(3) 寸法等の記載方法に誤りはないか。 例 2.3mm ⇒ t 2.3、 4-14φ 取付穴 ⇒ 4×φ14 取付孔		
	(4) キャビネットは1.6mm (以上) の鋼板である旨の指示があるか。		
	(5) ドア開閉部の隙間は、その空間の1箇所が3.5mm (以内) となっているか。 《説明書きでもよい》		
	(6) 共用形の横断面図には一般回路部分も記載されているか。		
	(7) 電線管又は金属製可とう電線管を容易に接続できるか。		
	(8) 耐熱形端子台への接続スペースは適切か。		
	(9) 表示灯のレンズはキャビネットの表面より突出しているか。		
	(10) 計器は配線の接続スペースが取れる位置にあるか。 配		
	(11) その他、記載事項に誤りはないか。		
8. 銘板図	(1) 銘板の材質は、金属製で厚さ0.8mm (以上) あるか。		
	(2) 銘板は、「耐熱形配電盤等認定基準」に示す、下記表示を満足しているか。 ア. 種別 (二種の配電盤、分電盤の別) 及び専用形、共用形の別 イ. 製造者又は商標 ウ. 製造年月 エ. 製造者形名 オ. 製造番号 カ. 定格電圧 キ. 相 ク. 線式 ケ. 定格電流 コ. 定格周波数		
	(3) その他、記載事項に誤りはないか。		
9. 認定品の 取扱い範囲 に関する図書	(1) 認定品の導電部の接続方法に問題はないか。 ア. 導体の接続方法について イ. 導体支持物の種類 (材質) について ウ. 電圧計及び表示灯へのコネクタ配線について		
	(2) 保護板の材料に問題はないか。		
	(3) ドア部の各種構造に問題はないか。(7. 構造図と同等以上か)		隙間など確認
	(4) 屋外用の構造に問題はないか。 屋根部の構造は、キャビネットを変更しないで取付ける構造であること。(屋根部取付けのためのねじ孔加工はよい)		
	(5) その他、記載事項に誤りはないか。		
10. 工場案内図	最寄りの駅から、工場までの道程がわかる案内図であるか。		
11. 書類審査 チェックシート	確認者のサイン及び日付の記載があるか。		
12. その他			

注記 1 結果欄には、適正は○印、不適正は×印、該当なしの場合は― 印を記入する。

注記 2 配 は、配電盤のみに適用。

注記 3 供試品とは、認定取得のために耐熱試験を行った盤をいう。

注記 4 認定試験一部省略とは、「認定試験規程」5.認定試験の一部省略に該当する盤をいう。

品質管理チェックシート

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項
1. 品質管理組織	(1) 品質管理は、品質管理に関する説明書の組織図に示されているように行われているか。		
	(2) 品質管理組織上の責任及び権限を明確にしているか。		
	(3) JSIA 認定工場又は JIS 品質マネジメントシステムの認証を取得しているか。		
2. 規格、図面の管理	(1) 保管責任者が定められているか。		
	(2) 管理部門、製造部門等必要な場所に備えているか。		
	(3) 次の規格、基準類（最新版）が備えられているか。 ア. 耐熱形配電盤等型式認定の手引 イ. 消防関係法令集 ウ. 建築基準法関係法令集 エ. 電気設備の技術基準 オ. 内線規程 カ. J I S 及び J E M 等における関係規格 キ. 社内設計基準 ク. 社内検査基準		
3. 環境の管理	(1) 整理、整頓が行われているか。		
	(2) 危険防止のための標識、識別が作業場内にされているか。		
	(3) 試験、検査の場所を確保することができるか。		
4. 試験装置等の管理	(1) 次の試験装置等を備えているか。 ア. 電圧調整器 100V、5A 以上 イ. 電流調整器 400A、C T 400/5A ウ. 交流電圧計 300V 以上、0.5 級以上 エ. 交流電流計 5A、0.5 級以上 オ. 耐電圧試験装置 A C 2000V 以上、0.5kV A 以上 カ. 絶縁抵抗計 D C 500V キ. 検電器 2000V 用以上 ク. テスタ ケ. 温度計、湿度計 コ. 膜厚計（防火塗料測定用）〔一種耐熱形のみ必要〕		
	(2) 管理基準を定めて管理しているか。		
	(3) 計器類は校正され、その表示がなされているか。		
5. 作業者等の技術管理	作業者に対し、製品の規格、仕様、作業方法等について教育及び訓練がなされているか。 ア. 社外講習への参加 イ. 社内講習の実施 ウ. 現場作業についての技術指導		
6. 在庫品の管理	(1) 材料、部品及び完成品は良好に保管されているか。		
	(2) 倉庫及び組立現場において材料、部品が防災用と一般用と区分して保管されているか。		
	(3) 不適合品等が適正に管理されているか。		
7. 製造工程の管理	(1) 作業標準等を制定し、作業員に周知徹底しているか。		
	(2) 品質管理工程図が作成されているか。		

項 目	チェック内容	結果	指 摘 事 項
8. 試験及び検査	(1) 材料、部品等の受入検査基準を定め、実施しているか。		
	(2) 製品の検査基準を定め、実施しているか。		
	(3) 検査時の具体的なチェック表を作成しているか。		
	(4) 検査したものについて表示がなされているか。		
	(5) 出荷品の検査記録は保管されているか。(10 年間)		
9. 情報の管理	(1) 納入後に発生した不具合等について調査、対策、処置の記録が整理、保管されているか。		
	(2) 不具合等について再発防止の措置がとられており、具体的な例で説明できるか。		
10. 認定取得後の証票の管理	(1) 認定証票は、どのような管理をしているか。		
	(2) 認定証票交付申請書、認定証票使用報告書及び認定証票取付台帳の管理体制は、どのようにしているか。		
11. その他 (認定盤を製作するに当って)	(1) 今後の認定盤製作に関わる内容について、把握しているか。		
	(2) 出荷品（最新）の内容確認に問題はないか。		
	(3) 性能確認耐熱試験時の供試品の確認。		

注記 1 結果欄には、適正は○印、不適正は×印、該当なしの場合は— 印を記入すること。

注記 2 認定工場又は JIS Q 9001 (ISO 9001) 認証を取得している場合、1. 7. 8. 9 項の審査は省略することができる。
なお、試験委員が必要と思われる場合は、審査対象としてもよい。

注記 3 11. その他について補足

- (1) 認定盤を製作するに、規則、告示内容及び製作に関わる注意事項などを、把握しているか確認。
- (2) 取得後における最新の図面を確認。(新規参入時は除く)
- (3) 性能確認耐熱試験時に合わせ、その供試品の製造に問題はないか確認。

構造検査チェックシート

(耐熱形配電盤等)

申 請 者 名		実 施 年 月 日	年 月 日
---------	--	-----------	-----------------

項 目	チ ェ ッ ク 内 容	結 果	指 摘 事 項
1. 構 造 1.1 構造一般	(1) 外形寸法及び構造は申請図通りか。500W×700H×200D また、寸法誤差は±3mm 以内か。		
	(2) キャビネットに変形、塗装のはくり、キズ等はないか。		
1.2 キャビネット	(1) 板厚は、ボックスの板厚は 1.6mm 以上、前面枠及びドア 2.3mm 以上であるか。ただし、ボックスが前面枠を兼ねる 前面縁(50mm)のある構造のものは 1.6mm 以上になっている か。なお、二種はすべて 1.6mm 以上であればよい。		
	(2) 一種耐熱盤の把手は“取付部品表”に記載の耐火形登録品 を使用しているか。なお、二種は金属製であればよい。		
	(3) 名称板は、正面の見やすいところに取付けてあるか。また、 その取付方法は、“認定基準”に適合しているか。		
	(4) 名称板の寸法は“取付部品表”に記載の通りか。		横寸法は 200mm 以上
	(5) 名称板の記入文字は適切か。(白地に赤文字) ・ 防災電源専用盤 ・ 防災電源共用盤 ・ 非常電源専用盤 ・ 非常電源共用盤 ・ 非常照明用盤 のいずれかとする。 なお、他の名称と同一彫刻することは不可。		
	(6) ドアの開度は、90 度以上であるか。		
	(7) 計器窓（配電盤の場合）の構造は申請図通りか。		
	(8) 銘板は“銘板図”に記載の金属製銘板を取付けているか。 なお、材質、刻印等が同等であると認められれば、申請図 通りのものでなくてよい。(仮の処置とし、後日写真を提出)		
	(9) 図面ホルダは“取付部品表”に記載の通りのものを使用し ているか。		
	(10) キャビネット吊上げ用アイボルト (M12) が 2 個準備されて いるか。		
1.3 表示灯	(1) 一種耐熱盤の表示灯は、“取付部品表”に記載の通りの耐火 形登録品で、正面板より突出しているか。 また、二種耐熱盤の表示灯は、取付孔径 15mm 以上で、正 面板よりレンズが突出しているか。		
	(2) 電球にネオン球を使用していないか。		
1.4 電線引込口 及び引出口	(1) 引込み位置は、申請図通りか。		
	(2) 引込み線に対する電線貫通金物等の大きさは適切か。		
1.5 ボックス取付孔	(1) 取付孔の数及び孔径 (4×φ14) は適切か。		
	(2) 取付孔の位置 (ピッチ) は 400W×600H であるか。		
2. 断熱ボックス	(1) 使用材料及び構造・寸法は申請図通りか。		
	(2) 外面及びボックスとドアの接触部に防火塗料が塗布 (塗布 厚 0.6mm 以上) されているか。 (塗布試片での確認可。)		
	(3) キャビネットに堅固に取付けられているか。		
	(4) 断熱ボックスのドアは、堅固に取付けられているか。		

項 目	チ ャ ッ ク 内 容	結 果	指 摘 事 項
2. 断熱ボックス	(5) 脱落防止ねじは、申請図通りのものか。 (鋼製・M6 以上、すり割り)		
	(6) ドアの開度は、90 度以上あるか。		
	(7) 接合部に隙間がないか。		
	(8) ボックスとドアの接触部の仕上げは適切か。		
	(9) 基板は、キャビネットと電氣的に接続されているか。		
3. 使用機器	使用機器は、“取付部品表”に記載されたものを使用しているか。		
4. 機器配置と配線	(1) 機器配置及び配線は、申請図通りか。		
	(2) 盤内配線は適切か。		
	(3) 機器等の取付けは適切か。		
	(4) 配線等の接続に、はんだを使用していないか。(使用不可)		
	(5) 確認表示灯回路にスイッチを設けていないか。 (使用不可)		
	(6) 表示灯回路の接続にコネクタを使用しているか。 使用している場合は、抜け止め防止の処置がしてあるか。		
	(7) 表示灯用ヒューズ及び電圧計用ヒューズの用途名称板は適切か。 (下線の部分は配電盤用)		
	表 示 灯  表示灯の例		
	(8) 接地端子は溝付六角ボルト（頭部緑色）とし、5.5mm ² 以上の電線が接続できるか。		
	(9) アース線の外部引出し施工は、容易にできるか。		
	(10) 外部からの電線接続工事は、容易にできるか。		
	(11) 電線接続部の締付けは、確実か。		
5. 検査	(1) 予備試験データが作成されているか。そのデータは良好か。		
	(2) 構造検査時の試験データ（絶縁、耐電圧試験）結果は良好か。		(1) (2) のデータ提出
6. 耐熱試験前措置	(1) 一種耐熱形配電盤・分電盤の施工説明書が準備されているか。		
	(2) 耐熱試験用として、耐熱表示灯用受皿金具が準備されているか。(図 1-1 参照)		
	(3) 耐熱試験用基板及び断熱ボックス内部の B 点用測温体支柱は準備されているか。(図 1-3、図 1-2 参照)		
	(4) 構造検査に合格したものには、合格印を捺印したか。 (キャビネットドア裏面、断熱ボックスドア表面)		
	(5) 検査終了後の盤の写真撮影（申請者による）を終了したか。 3 枚（耐熱試験受入れ審査時提出用）		
7. その他			

注記 結果欄には、適正は○印、不適正は×印を記入する。

(単位：mm)

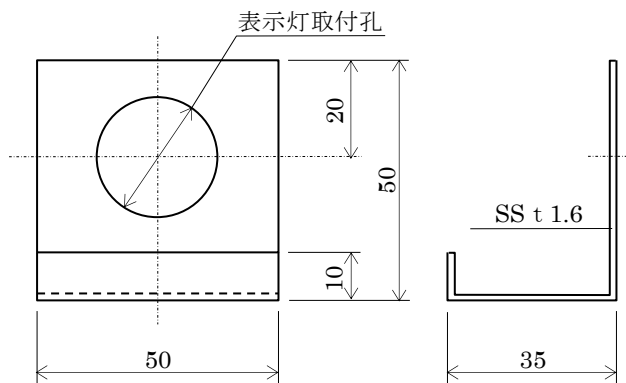


図 1-1 耐熱表示灯用受皿金具

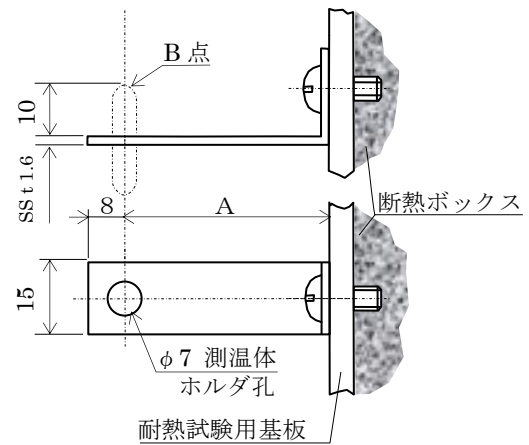


図 1-2 B点测温体支柱

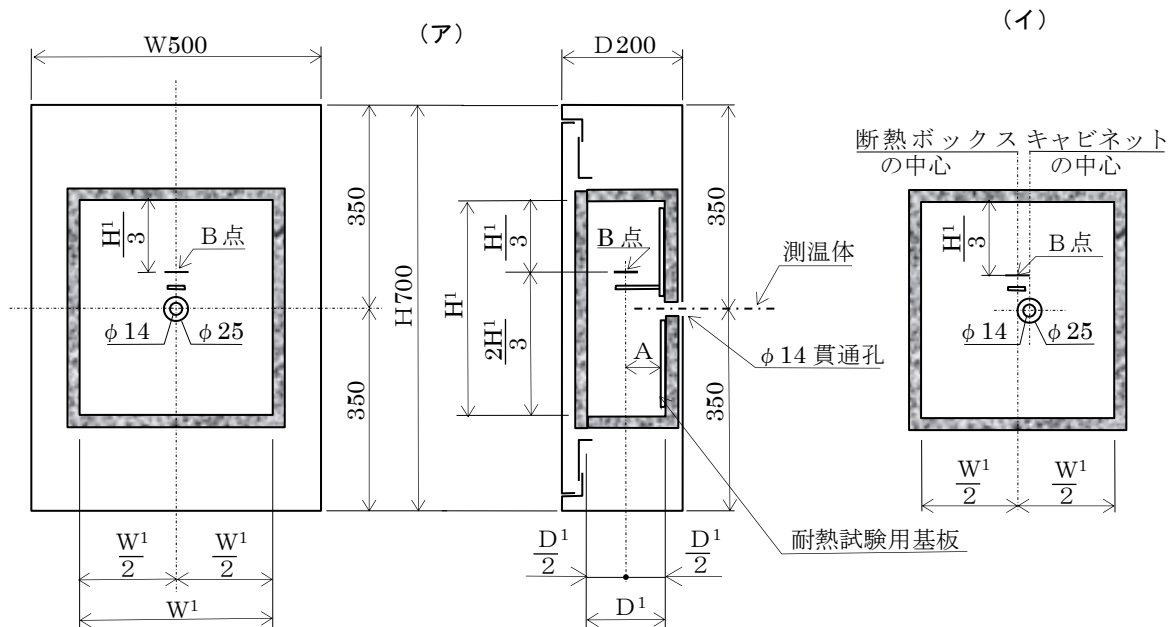


図 1-3 耐熱試験用基板及びB点用测温体支柱の取付け位置

注記 1 基板には $H^1/3$ 、 $D^1/2$ 、 $W^1/2$ の寸法を、マジック等で記入しておく。

注記 2 断熱ボックスの中心がキャビネットの中心と一致しない構造のものは(イ)による。

注記 3 基板のB点用测温体の引込孔は、断熱効果を上げるためφ25とする。

耐熱試験受入チェックシート

(一種耐熱形配電盤等)

申 請 者 名		実 施 年 月 日	年 月 日
---------	--	-----------	-------------

項 目	チェック内容	結果	指摘事項
1. 構造	(1) 構造検査に合格した供試品であるか。 (検査済み印の確認) (2) 構造検査時に指摘事項があった場合指摘事項及び処 置に関する書類を持参したか。 (3) 構造検査時に撮影したカラー写真を持参したか。 サイズは 117mm×82.5mm 程度とする。 枚数は ア. キャビネットの正面外観 1 枚 イ. キャビネットの正面内部 1 枚 ウ. 断熱ボックスの正面 (断熱ボックス内部) 1 枚		
2. 充填物	申請されている断熱充填物 (シール材) を持参したか。		
3. 損傷等	(1) キャビネットに損傷がないか。 (2) 取付け部品に破損はないか。 (3) 取付け部品にゆりみ、はずれがないか。 (4) 断熱材、断熱措置に損傷はないか。		
4. その他	(1) ドアの機器及びボックス内の耐火形端子台を残し、 その他の機器、保護板及び電線等をはずしてあるか。 (2) キャビネット及び断熱ボックス上下の電線貫通孔部 分は、塞ぎ板 (鋼板等) で塞いであるか。 (3) 表示灯には、耐熱表示灯用受皿金具が取り付けてある か。 (4) B 点 (内部) の位置を示す寸法が耐熱試験用基板に記 載されているか。B 点用センサの支柱は取付けてある か。 (5) シール A は、ドーナツ状としたか。(確認)		注記 1 シール A は予め申請者が行う。 注記 2 シール B は加熱試験所で試験委員の指示により申請者が行う。

注記 結果欄には、適正は○印、不適正は×印、該当なしの場合は一印を記入する。

耐熱試験チェックシート

（一種耐熱形配電盤等）

申 請 者 名		実 施 年 月 日	年 月 日
---------	--	-----------	-------------

項 目	チェック内容	結果	指摘事項
1. 耐熱試験前	(1) 耐火電線貫通孔の断熱充填物の充填は完全か。 (2) B点センサ引込孔のシールの状態を申請者が確認したか。 (3) 供試品を台車に取付けた状態を申請者が確認したか。 (4) 写真撮影したか。 （正面外観、正面内部、正面断熱ボックス内部）		
2. 耐熱試験中	(1) 840 度耐熱試験温度曲線に誤りはないか。 (2) 断熱構造部の内部温度（B点温度）は、30 分加熱後次の温度以下になっているか。 ・ 1 型は 2 8 0 度以下 ・ 2 型は 1 0 5 度以下		
3. 耐熱試験後	(1) 銘板の記載文字は、確認できるか。 (2) 写真撮影したか。 （正面外観、正面内部、正面断熱ボックス内部）		

注記 結果欄には、適正は○印、不適正は×印を記入する。

耐熱試験後の状態

耐熱試験結果総評

加熱試験の準備等 (一種耐熱形配電盤等)

構造検査終了後、申請者は加熱試験を行うに当たって、次の措置をしておく。

1. 構造検査において指摘事項があり、手直し完了をもって合格とする場合、指摘事項及び処理に関する書類を耐熱試験時に提出する。また、構造検査時に撮影した写真も併せて提出する。
2. 構造検査に合格した盤（供試品）で加熱試験を受けるが、加熱試験前までに次のような措置をしておく。
 - (1) キャビネット上部 2 箇所アイボルト（吊りボルト）M12 を設ける。
なお、構造検査前に取付け加工してもよい。
 - (2) キャビネット正面の名称板は撤去し、ねじ孔は金属ねじにて埋めておく。
 - (3) 耐火表示灯部分は、図 1-1 に示す耐熱表示灯用受皿金具と耐火表示灯と共締めしておく。
 - (4) 配線は全て撤去する。なお、キャビネット及び断熱ボックス上下の電線貫通孔部分は、塞ぎ板（鋼板等）で塞いでおく。
 - (5) キャビネット内は、耐火端子台、断熱ボックス、銘板を除きすべて撤去する。
 - (6) 断熱ボックス内は、内部機器、基盤を撤去し、図 1-3 に示す耐熱試験用基板及び図 1-2 に示す B 点用測温体支柱を規定の位置に取り付ける。
なお、キャビネット本体及び断熱ボックスの背面に、孔あけが必要となるが、構造検査前に予め孔あけ処理しておいてもよい。
 - (7) 図 1-4 に示す断熱充填物（シール A）を、断熱ボックスとボックスの背面の間に挿入する。測温体通線後では処理できないので、予め処理しておく。なお、シール A は、断熱効果を上げるため必ずドーナツ状にする。
また、断熱充填物（シール B）は試験当日試験所にて試験委員の指示により申請者が行う。

注記 断熱充填物シール A とシール B は同じものである。

3. 申請者は加熱試験当日、次のような工具等にて、次の作業を行う。

(1) 持参する工具

- ア. 断熱充填物・・・・・・・・・・測温体貫通後の孔埋め用
- イ. 耐火形扉用把手のかぎ(キー)・・・扉用把手の開閉用
- ウ. ドライバ・・・・・・・・・・断熱ボックス扉部の脱落防止用ねじ開閉用
- エ. カメラ・・・・・・・・・・加熱試験前・後の写真撮影用

(2) 作業

盤の加熱炉据付け、加熱温度試験、加熱試験データの作成については、試験所にて行うが、次の作業については、申請者にて行うものとする。【責任の明確化】

- ア. 測温体をキャビネット背面より通線した後、図 4 に示すように断熱充填物（シール B）にて、隙間を埋めする作業
- イ. 脱落防止ねじにて、断熱ボックスのドア部の閉（固定）作業
- ウ. ボックスのドア部のかぎをかける作業
- エ. 耐熱試験前後の写真撮影（計 6 枚）
 - ・キャビネットの正面外観
 - ・キャビネットの正面内部（ドア開）
 - ・断熱ボックスの正面（ドア開）

注記 性能確認耐熱試験は、上記に準じて行う。

(単位：mm)

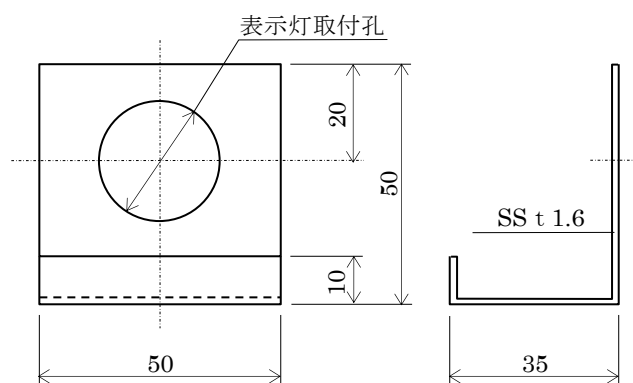


図 1-1 耐熱表示灯用受皿金具

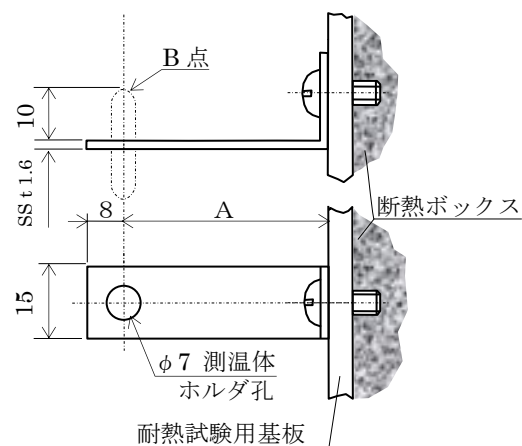


図 1-2 B点测温体支柱

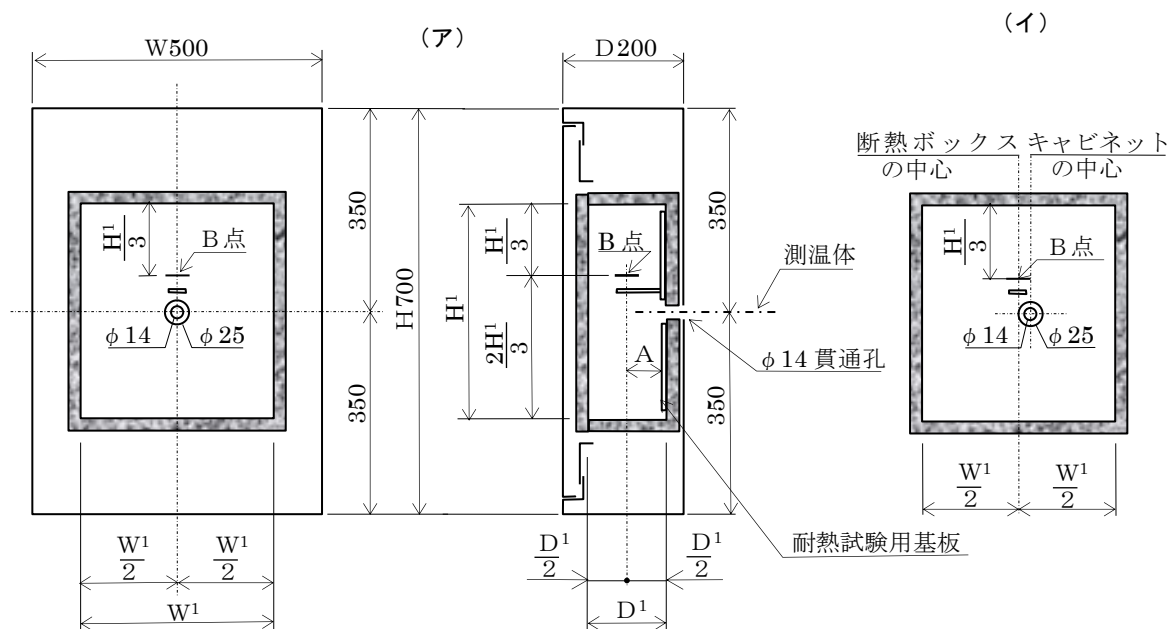


図 1-3 耐熱試験用基板及びB点用测温体支柱の取付け位置

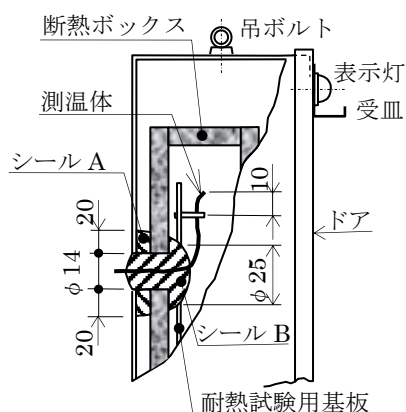


図 1-4 测温体(センサ)据付と断熱充填物

- 注記 1 基板には $H^1/3$ 、 $D^1/2$ 、 $W^1/2$ の寸法を、マジック等で記入しておく。
- 注記 2 断熱ボックスの中心がキャビネットの中心と一致しない構造のものは(イ)による。
- 注記 3 基板のB点用测温体の引込孔は、断熱効果を上げるためφ25とする。
- 注記 4 図 1-4 のシールAはドーナツ状とし、予め申請者が措置しておく。

認定品出荷検査チェックシート例

(一種耐熱形配電盤等)

検 査 月 日	年 月 日
検 査 担 当	

型式区分		耐熱性能	
型式番号		証票番号	
納 入 先		図面番号	
注 文 先		盤 名 称	
製造番号			

項 目	チェック内容	結果	補 記
1. 構造	(1) 形状、寸法は図面通りか。記載内容は良いか。 なお、各部の寸法は、取得した型式の各部の寸法より小さくしてはならない。		幅 (W) mm 高さ (H) mm 奥行き (D) mm
1.1 構造一般	(2) 前面枠及びドア 2.3mm、その他は 1.6mm 以上の鋼板か。 なお、ボックスが前面板を兼ねる前面枠のある構造で幅が 50mm 以下のものは 1.6mm でよい。		
	(3) ボックスの接続ボルトは、鋼製以上の熱的強度を有するものを使用しているか。		黄銅製は不可
	(4) ドア開閉部は、熱気流 1 回返し以上の構造で、その空間の 1 箇所は 3.5mm 以下となっているか。		
	(5) 次に掲げる以外のものが、外部に露出していないか。 なお、名称版及び認定証票は除く。 ・耐火形表示灯 ・電線の引込口及び引出口 ・扉用把手及びかぎ		
1.2 ドア	(1) 扉把手は耐火形登録品を使用しているか。		
	(2) 名称板は正面の見やすいところに取付けてあるか。		
	(3) 名称板の寸法は、取付け部品表の通りか。 なお、名称版の横幅は 200mm 以上であること。		
	(4) 名称板の記入文字は適切か。(白地に赤文字) ・防災電源専用盤 ・防災電源共用盤 ・非常電源専用盤 ・非常電源共用盤 ・非常照明用盤 のいずれか。		他の名称と同一彫刻は不可
	(5) ドア裏面に申請図通りの金属製銘板を取付けているか。		
	(6) 共用形の場合、防災回路の定格は赤色の文字で表示されているか。		
	(7) 表示灯は耐火形登録品を使用しているか。なお、表示灯は表面より突出していること。(内部に入れてはならない)		
	(8) 表示灯のレンズは、確認表示灯：赤色、電源表示灯：白色としているか。 なお、ネオン球は使用不可。		

項 目	チェック内容	結果	補 記
1.2 ドア	(9) 計器窓の構造は適切か。 ☒		取得形状と同様とする
	(10) ドアの開度は、 <u>90 度以上</u> であるか。		
1.3 断熱ボックス	(11) 図面ホルダは、金属又は金属枠と難燃性の透明板 1.0 mm 厚以下のものを組合せたものであるか。		
	(1) 断熱ボックスの材料は、図面通りか。		供試品（認定取得品）の材料と同一とする
	(2) 断熱ボックスの各部の寸法は、供試品（認定取得品）の各部の寸法より大きいか。		W×H×D 小さくしてはならない
	(3) 断熱ボックスへの防火塗料の塗布箇所は、認定取得品の同部分で、その塗布厚は 0.6mm 以上であるか。		
	(4) 脱落防止ねじ（M6 以上）及び金具は、鋼製以上の熱的強度を有するものを使用しているか。ねじは頭部にドライバ用のすり割りを入れたものであるか。		
	(5) 断熱ボックスの材料の接合部及びコーナ補強は適正か。		
	(6) 接合部には、隙間がないか。		
	(7) ドアとボックス部の接合面の仕上げは、適正か。		
	(8) 断熱ボックス用ドアは堅固に、取付けられているか。		
	(9) ドアの開度は、90 度以上あるか。		
	(10) キャビネットに堅固に、取付けられているか。		
	(11) 断熱ボックスの電線貫通部は断熱充填物でシールされているか。		
	(12) 使用機器、基板（部品取付板）は堅固に取付けてあるか。		
	(13) 使用機器、基板（部品取付板）はキャビネットと電氣的に接続されているか。		
2. 使用機器	使用機器は図面に記載されているものを使用しているか。その機器は一種耐熱盤の仕様に適合しているか。		
3. 機器配置及び配線	(1) 盤内配線は適切か。（耐火、汎用の区別は適正か。）		
	(2) 機器等の取付けは適切か。		
	(3) 配線等の接続に、はんだを使用していないか。		使用不可
	(4) MCCB 等の用途銘板の材質は耐熱形又は金属製か。		
	(5) 確認表示灯回路は MCCB の 2 次側より接続しているか。		
	(6) 表示灯回路に、スイッチを設けていないか。		使用不可
	(7) 表示灯回路の接続にコネクタを使用している場合は、抜け止め防止の処置がしてあるか。		
	(8) 表示灯用ヒューズ及び電圧計用ヒューズ（共に両極）は消弧剤入りの 1～3A であるか。（下線の部分は配電盤用）		
	(9) 表示灯用ヒューズ及び電圧計用ヒューズの用途名称板は適切か。（下線の部分は配電盤用）		表示灯  表示灯の例
	(10) 接地端子は溝付六角ボルト（頭部緑色）とし、5.5 mm ² 以上の電線が接続できるか。		
	(11) アース線の外部引出し施工は、容易にできるか。		
	(12) 外部からの電線接続工事は、容易にできるか。		
	(13) 接続部の締付けは、確実か。		
	(14) 電流計には CT が併用されているか。 ☒		

[illegible]

注記1 このチェックシートは取得者の参考に供するため作成した。

注記2 **配** は配電盤のみに適用する。

認定品出荷検査チェックシート例

(二種耐熱形配電盤等)

検 査 月 日	年 月 日
検 査 担 当	

型式区分			
型式番号		証票番号	
納 入 先		図面番号	
注 文 先		盤 名 称	
製造番号			

項 目	チェック内容	結果	補 記
1. 構造	(1) 形状、寸法は図面通りか。記載内容は良いか。 なお、各部の外形寸法は W500×H700×D200 以上であるか。		幅 (W) mm 高さ (H) mm 奥行き (D) mm
1.1 構造一般	(2) キャビネットは 1.6mm 以上の鋼板か。(正面の面積が 2000mm ² 以下の場合には 1.2mm 以上の鋼板を使用してもよい)		
	(3) ボックスの接続ボルトは、黄銅製以上の熱的強度を有するものを使用しているか。		
	(4) ドア開閉部は、その空間の 1 箇所は 3.5 mm 以下となっているか。		
	(5) 次に掲げる以外のものが、外部に露出していないか。 なお、名称板及び認定証票は除く。 ・表示灯 ・電線の引込口及び引出口 ・扉用把手及びかぎ ・電圧計、電流計		温度 120 度で支障のないもの
1.2 ドア	(1) 扉用把手は金属製か。かぎ付か。		
	(2) 名称板は正面の見やすいところに、取付けてあるか。		
	(3) 名称板の寸法は、取付け部品表の通りか。なお、名称板の横幅は 200mm 以上あること。		
	(4) 名称板の記入文字は適切か。(白地に赤文字) ・防災電源専用盤 ・防災電源共用盤 ・非常電源専用盤 ・非常電源共用盤 ・非常照明用盤 のいずれか。		他の名称と同一彫刻は不可
	(5) ドア裏面に申請図通りの金属製銘板を、取付けているか。		
	(6) 共用形の場合、防災回路の定格は赤色の文字で表示されているか。		
	(7) 表示灯の取付孔は 15mm 以上でレンズは正面板より突出しているか。(内部に入れてはならない)		
	(8) 表示灯のレンズは、確認表示灯：赤色、電源表示灯：白色を使用しているか。 なお、ネオン球は使用不可。		
	(9) ドアの開度は 90 度以上であるか。		

項 目	チェック内容	結果	補 記
1.2 ドア	(10) 図面ホルダは、金属又は金属枠と難燃性の透明板 1.0 mm 厚以下のものを組合せたものであるか。		
2. 使用機器	使用機器は図面に記載されているものを使用しているか。 その機器は二種耐熱盤の仕様に適合しているか。		
3. 機器配置 及び配線	(1) 盤内配線は、適切か。		
	(2) 機器等の取付けは、適切か。		
	(3) 配線等の接続に、はんだを使用していないか。		使用不可
	(4) 確認表示灯回路はMCCBの2次側より接続しているか。		
	(5) MCCB等の用途銘板の材質は難燃性か。		
	(6) 表示灯回路に、スイッチを設けていないか。		使用不可
	(7) 表示灯回路の接続にコネクタを使用している場合は、 抜け止め防止の処置がしてあるか。		
	(8) 表示灯用ヒューズ及び電圧計用ヒューズ（共に両極）は消 弧剤入りの1～3Aであるか。（下線の部分は配電盤用）		
	(9) 表示灯用ヒューズ及び電圧計用ヒューズの用途名称板は 適切か。（下線の部分は配電盤用）		表示灯  A 表示灯の例
	(10) 接地端子は溝付六角ボルト（頭部緑色）とし、5.5mm ² 以上の電線が接続できるか。		
	(11) アース線の外部引出し施工は、容易にできるか。		
	(12) 外部からの電線接続工事は、容易にできるか。		
	(13) 接続部の締付けは確実か。		
	(14) 電流計にはCTが併用されているか。 配		
4. 回路	(1) 防災電源の回路構成に問題はないか。		
	(2) 共用形の場合、協調が取れているか。		
5. 検査	(1) 試験データが作成されているか。		
	(2) 絶縁、耐電圧試験結果は良好であるか。		
	(3) その他、試験結果に問題はないか。		
6. 認定証票等	(1) 出荷検査に合格した製品に対し、認定証票を取付けたか。		
	(2) 認定証票はエポキシ樹脂系の接着剤で貼付け、かつ、ねじ で止めたか。		
	(3) 注意ラベルがドア裏面に貼付されているか。		
	(4) 認定証票取付台帳に、型式番号等記載したか。		
7. その他			

注記 1 このチェックシートは取得者の参考に供するため作成した。

注記 2 配 は配電盤のみに適用する。

一種耐熱形配電盤等 使用機器・部材チェックシート

盤 名 称						検 査	
No	品 名	耐熱性能	280℃型	105℃型	結 果	注 記	
		該当欄○					
1	ボックス		申請	申請		認定申請時の寸法以上の鋼板製	
2	前面枠・ドア		申請	申請		t2.3 以上の鋼板製	
3	保護板		申請	申請		t1.6 以上の鋼板製	
4	断熱ボックス		申請	申請		認定取得時の材料及び寸法	
5	脱落防止ねじ		申請	申請		鋼製 M6 以上 すり割入	
6	扉用把手		耐火	耐火			
7	配線用遮断器		一種	二種		ロックカバー(ハンドルロック)使用不可。	
8	電磁接触器		一種	二種			
9	電磁継電器		一種	二種			
10	表示灯		耐火	耐火		レンズは表面より突出していること。 ネオン球は使用不可。	
11	制御用スイッチ		耐火	耐火			
12	過電流継電器		一種	二種			
13	液面継電器		×	二種			
14	整流器		一種	二種			
15	変流器		一種	二種			
16	電流計		汎用	汎用		2.5 級以上・変流器(CT)の二次側に接続されているか。ガラス窓付き。	
17	電圧計		汎用	汎用		2.5 級以上・ヒューズの二次側に接続されているか。ガラス窓付き。	
18	制御用変圧器		一種	二種			
19	表示灯用変圧器		一種	二種			
20	ヒューズホルダ		一種	二種		制御回路等用(主回路ではない)	
21	ヒューズエレメント		汎用	汎用		表示灯用、電圧計用は両極。消弧剤入り 1A～3A ヒューズの用途名称板を付ける。	
22	端子台		耐火	耐火			
			一種	二種		断熱ボックス内部のみ使用可。	
23	低圧配電用サージ防護デバイス		×	二種			
24	配線用ダクト		×	二種			
25	図面ホルダ		汎用	汎用		防災電源回路には必ず設ける。金属製又は金属 枠と難燃性の厚さ 1mm 以下の透明板	
26	カードホルダ(用途名称板)		一種	汎用 (難燃性)		金属製でも良い	
27	電線		耐火	耐火		認定品 (<u>モンテ</u> JCT 又は <u>モンテ</u> JCMA)	
			汎用	汎用		焼損しても主回路に影響がない部分。 例：表示灯用ヒューズの二次側。 電圧計用ヒューズの二次側。変流器の二次側	
28	名称板(盤名称)		汎用	汎用		幅は 200mm 以上、白地に赤文字の専用名称板。 「防災電源専用盤」「防災電源共用盤」 「非常電源専用盤」「非常電源共用盤」「非常照 明用盤」より選択。他の名称と同一彫刻は不可。	
29	銘板(定格銘板)		申請	申請		黄銅製厚さ 0.8mm 以上、ドア裏面取付け	

注記 1 耐火：耐火形機器 一種：一種耐熱形機器 (以上 JSIA の認定品・登録品を示す。)

申請：申請図書の性能以上 汎用：汎用品 ×：該当機種なし〔使用できない〕

注記 2 耐火電線は、JCT 及び JCMA における認定品を示す。

注記 3 使用機器は、二種機器にないものにおいては、表記以上の性能機器(一種)を使用する。

二種耐熱形配電盤等 使用機器・部材チェックシート

盤 名 称				検 査	
No	品 名	機器	結果	注 記	
1	ボックス	申請		W500 以上、H700 以上、D200 以上、t1.6 以上の鋼板製	
2	前面枠・ドア	申請		t1.6 以上の鋼板製	
3	保護板	申請		t1.6 以上の鋼板製	
4	扉用把手	汎用		金属製、施錠形	
5	配線用遮断器	二種		ロックカバー(ハンドルロック)使用可	
6	電磁接触器	二種			
7	電磁継電器	二種			
8	表示灯	汎用		孔径φ15 以上、レンズは表面より突出していること。 ネオン球は使用不可。	
9	制御用スイッチ	二種			
10	過電流継電器	二種			
11	液面継電器	二種			
12	整流器	二種			
13	変流器	二種			
14	電流計	汎用		2.5 級以上・変流器(CT)の二次側に接続されているか。	
15	電圧計	汎用		2.5 級以上・ヒューズの二次側に接続されているか。	
16	制御用変圧器	二種			
17	表示灯用変圧器	汎用			
18	ヒューズホルダ	二種		制御回路等用（主回路ではない）	
19	ヒューズエレメント	汎用		表示灯用、電圧計用は両極。消弧剤入りの 1A～3A ヒューズの用途名称板を付ける。	
20	端子台	二種			
21	低圧配電用サージ防護デバイス	二種			
22	配線用ダクト	二種			
23	図面ホルダ	汎用		防災電源回路用扉には必ず付ける。金属製又は金属枠と難燃性の厚さ 1mm 以下の透明板。	
24	カードホルダ(用途名称板)	汎用		難燃性又は金属製	
25	電線	汎用 耐熱		HIV 電線又は 認定品（ ニテイ JCT 又は ニテイ JCMA）	
		汎用		焼損しても主回路に影響がない部分 例：表示灯用ヒューズの二次側。 電圧計用ヒューズの二次側。変流器の二次側。	
26	名称板（盤名称）	汎用		幅は 200mm 以上、白地に赤字の専用名称板。 「防災電源専用盤」「防災電源共用盤」 「非常電源専用盤」「常電源共用盤」「非常照明用盤」 より選択。他の名称と同一彫刻は不可。	
27	銘板（定格銘板）	申請		黄銅製厚さ 0.8mm 以上、ドア裏面取付け。	

注記 1 二種：二種耐熱形機器（以上 JSIA の認定品・登録品を示す。） 申請：申請図書の性能以上 汎用：汎用品

注記 2 耐熱電線は、JCT 及び JCMA における認定品を示す。

注記 3 使用機器は二種機器にないものにおいては、表記以上の性能機器（一種）を使用する。

認定機器と登録機器

耐熱形配電盤等に用いる認定機器及び登録機器には、次のような機器がある。

表 認定機器と登録機器

機 器 の 種 類	耐火・耐熱の別		認定・登録の別	
	耐火形機器	耐熱形機器	認定機器	登録機器
耐火形端子台	○		○	
耐火形表示灯	○			○
耐火形扉用把手	○			○
耐火形制御用スイッチ	○			○
耐熱形配線用遮断器		○	○	
耐熱形ヒューズ		○	○	
耐熱形素子なし配線用遮断器		○	○	
耐熱形電磁接触器		○	○	
耐熱形電磁継電器（コンタクタ形）		○	○	
耐熱形過電流継電器		○		○
耐熱形液面継電器		○		○
耐熱形整流器		○		○
耐熱形変流器		○		○
耐熱形制御用変圧器		○		○
耐熱形表示灯用変圧器		○		○
耐熱形ヒューズホルダ		○		○
耐熱形端子台		○		○
耐熱形制御用スイッチ		○		○
耐熱形ダクト		○		○
耐熱形カードホルダ		○		○
低圧配電用サージ防護デバイス		○		○

注記 1 耐熱形認定機器及び登録機器には、使用区分により一種及び二種がある。

注記 2 詳細は一般社団法人日本配電制御システム工業会のホームページ「耐熱機器」“機器の種類と認定・登録取得者”を参照する。